

令和4年度
貞光中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標
①「個々の特性に合わせた言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成」
②「ICTを活用し、主体的に学習する習慣を身につけさせる学習環境づくり」

学力向上検討委員会構成
学力向上推進員
長谷明日香
委員
校長:永尾修一 教頭:兼松佳史
教務主任・研修主任:藤岡由美子 3学年主任:福田恵

校長
永尾 修一

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「前進」タイムの課題に真面目な取組がみられ、学習内容が分かるようになりたいと思っている生徒が多い。 ●学力差が大きく、基礎・基本が定着していない生徒がいる。	①基礎的・基本的な知識や技能を確実に身につけることができる。 ②新たに身につけた知識や技術を、既習の内容と関連付け、他の学習の場面にも活用することができる。	①「前進タイム」で国・数・社・理・英の反復練習を継続的に実施するとともに、個別指導の場面を設定する。 ②「前進タイム」の読書時間の充実や、図書室の利用を推進する。 ③「真中スタンダード」を確立し、授業冒頭で授業の見通しを示すことや授業終末で振り返りの時間を設定することで本時の学習の流れを明確にする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○グループでの話し合い活動に意欲的に取り組める生徒が多い。 ●自分の考えを、根拠を示しながら筋道を立てて説明することが苦手な生徒が多い。	①人の話をよく聞き、様々な考えや意見を比較したり、自分の考えや意見と照らし合わせたりすることで自身の考えを表現することができる。 ②話し合い活動を通して、課題解決を図るための見通しを立てることができる。	①話し合いの活動の中で、根拠や理由を明確にして自身の考えを表現できる場面を積極的に設定する。 ②相互授業参観の機会を設け、各自が積極的に授業改善を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中、積極的に発表する生徒が多い。また、活動や課題に粘り強く取り組もうとする生徒が多い。 ●家庭学習の習慣が身についていない生徒や、学習時間が十分に確保できていない生徒がいる。	①自分に合った学習目標を立て、課題や自主学習に継続して根気強く取り組むことができる。 ②各教科の学習に対して、主体的に取り組むことができる。	①「学習プランを立てよう」や「キャリアパスポート」等で、自身の家庭学習について振り返りをしたり生徒が成長を実感したりできる場面を設定する。 ②「学習の手引き」を全校生徒に配布・説明をし、年間を通して有効活用させる。 ③自主勉強ノートの学習の様子を全校生徒に広報し、状況の確認と賞賛を毎月行う。 ④学習ソフトを使ってタブレットを有効活用し、苦手を克服させる。			

